

きゅうりの炭疽病が広く発生しており、発生程度の高い圃場も確認されています。

発病葉を摘葉し、有効な薬剤で防除を徹底しましょう。

現在の状況

- 1 8月上旬の巡回調査では、発生圃場率は92.3%（平年46.9%）で平年より高く、発生程度の高い圃場も確認された（図1）。
- 2 向こう1か月（8/6～9/5）の気温は高く、降水量は平年並の予報であり、感染に好適な条件である。
- 3 成り疲れ等による草勢の低下により、今後さらなる感染の拡大が懸念される。

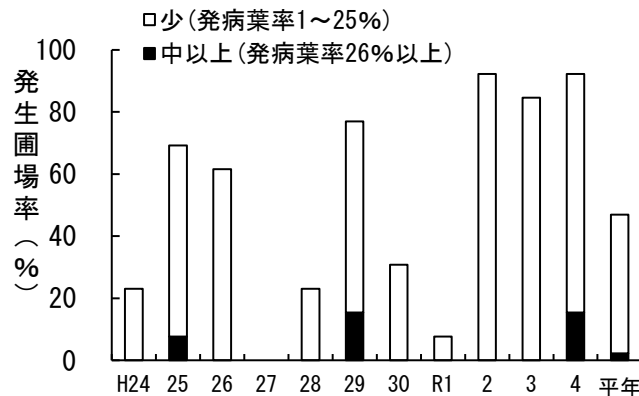


図1 炭疽病の年次別発生推移（8月上旬）

防除対策

- 1 発病葉を摘葉し、直ちにアミスターオブティフロアブル等のQoI剤や、ゲッター水和剤を散布する。発病葉を残すと、病斑部から多量の胞子が落下し、発病葉直下では生長点や新展開葉で発病して早期枯れ上がりの原因となるため、発病初期の摘葉を徹底する。
- 2 QoI剤は耐性菌の発生リスクが高いため年2回以内の使用とし、連用しない。
- 3 草勢が低下しているとまん延しやすいので、追肥・整枝・摘葉など適切な管理により、草勢の回復に努める。



図2 炭疽病の病斑（葉）



図3 炭疽病による新葉（左）及び果実（右）の奇形

☆農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)☆

【利用上の注意】

本資料は、令和4年8月3日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

